慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1955
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.48, No.12 (1955. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19551201--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

慶應義塾經濟學會

十二月號

昭和三十年十二月一日發行（毎月一日發行）
昭和二十六年二月十三日國鐵特別扱承認雜誌第一、九〇三號
昭和二十五年十月二十四日第三種郵便物認可

論說

西獨鐵鋼業の復興過程……山本登（一）

社會政策と勞働の人間的構造……中鉢正美（一五）
——いわゆる「賃勞働の理論」によせて——

資料

モンゴル遊牧民の男女分業……後藤富男（三〇）
——その社會的な地位との關係——

書評及び紹介

經濟學關係文獻目錄

昭和三十年下半期總目次

第四十八卷　第十二號

昭和二十五年十月二十四日第三種郵便物認可
昭和二十六年二月十三日國鐵特別扱承認雜誌第一、九〇三號
昭和三十年十一月一日發行（毎月一日發行）

三田學會雜誌　昭和三十年十一月號　定價　金七〇圓（四送料）

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 48, No. 11　November, 1955

CONTENTS

Page

The Meaning of Population Policy .....*T. Terao* (1)

Changes in Productivity and the Distribution of Income
.....*R. Suzuki* (15)

The Analysis of the *Lohnarbeit* Problems
in the Classical School ——Adam Smith——
.....*K. Imura* (29)

Reviews and Notes

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
Keio-Gijuku University,
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 70 yen

書評及び紹介

久武雅夫著『數理經濟學原理』……鈴木諒一（四七）

F・ベーレンス著 石津英雄譯『近代經濟學の生誕』……中鉢正美（四九）
——ゴッセンへの批判——

エルスナー著 千葉秀雄譯『經濟恐慌』……常盤政治（五二）

市原季一著『ドイツ經營學』……小島三郎（五五）
——ドイツ的經營學の生成と發展——

西獨鐵鋼業の復興過程

山本登

はしがき

戰後十年間における西獨の目覺しい經濟復興の過程については、今日既にわが國でも、內外の文獻を通じて廣く紹介されている。こと（註一）に一九四八年の通貨改革を「起動力」として、順調な再建の軌道に乘り入れたことに關しても、衆目の一致する所と見られる。

OEECの昨年度西獨經濟現勢報告は、その冒頭にこの期間における西獨經濟の復興狀況について、次の如き纒りよき概譬を與えている。（註二）

「西獨の經濟復興は、多くのメムバー諸國におけるよりも遲れて、且つ低い水準から出發した。しかし一九四八年の通貨改革以降、その回復は極めて急速であり、また人口の激增を伴つた。現在その人口は戰前に比して二五%增であり、それは主として東部からの移民に基づく。西獨の防衞費負擔は、他のメムバー諸國のそれとは性質を異にし、かくてその經濟は西獨に特有の線に沿つて進展してきた。

一九五二年の下半期以降西獨における經濟的膨脹は、何等のインフレ的影響なしに非常な急速度で進展してきた。それどころか西獨の金融情勢は人口の增大にも拘らず强化され、國際收支は實質的な餘剩を擧げ、またメムバー諸國からの民間輸入は大幅に自由化された。この樣な發展に鑑みて、OEECの第五次年次報告書は將來についての樂觀論を揭げている。

しかしこの同じ報告書は、なお克服を要する次の諸困難についての注意を喚起している。これらの諸困難とは、卽ち社會問題、とりわけ難民問題を含み、また現在なお狹隘すぎる資本市場や高すぎる利子率に關する金融技術上の問題、特別の投資努力がなお要求される基礎產業における低位の生產性の問題並びにEPU地域との間の西獨の極端な債權者的地位の是正の問題等である。」

報告書自體は、なおこの最後の問題を重要視して、その詳細な檢討に移るわけであるが、多少長すぎるとも見られる前揭の引用は、誠によく西獨經濟の復興過程における主要な問題點を摘出しているものと云えよう。